

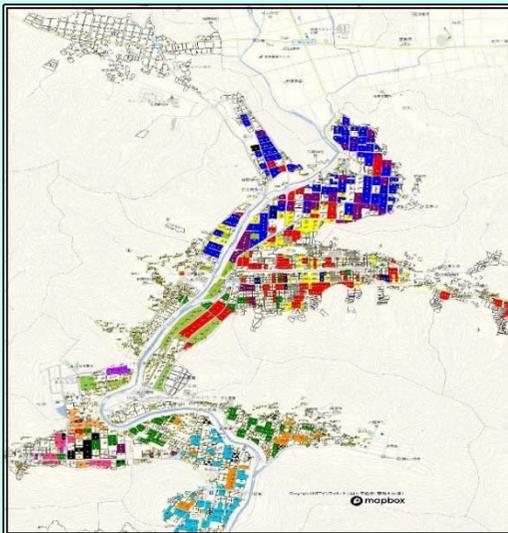
【地域の概要】

- 伊自良川沿いの山に挟まれた地域
- 彦坂、石谷、村山、安食、岩利、佐野の地域に大別され、中心となる担い手がいる地区もある。
- 地域計画のモデル地区として指定

①取組開始前の状況や課題

集落ごとの現状

- 岩利地区は集落の過半を耕作する営農組合が存在している。
- 彦坂地区については新規で営農組合が発足した。
- 中小農家しか農業の担い手がない集落もある。



方県地区現況地図（中心経営体で塗り分け）

②取組内容

戦略会議（令和5年5・7・11・12月）

- 担い手、農業委員、推進委員、農林事務所、JA、市農林課、農委事務局が参加し、戦略会議を積み重ね、協議の場に向けての準備を行った。
- 水利組合（集落）ごとの現況地図、目標地図の案を作成し、話し合いの材料とした。
- 目標地図の案を担い手と話し合いながら調整した。



戦略会議の様子

協議の場（令和6年2月）

- 戦略会議メンバーに加え、農業会議、中間管理機構、市農地整備課など、計26名が参加。
- 案を基に話し合い、目標地図を作成した。
- 大規模な担い手がない集落があることなど地域の課題の洗い出しを行った。

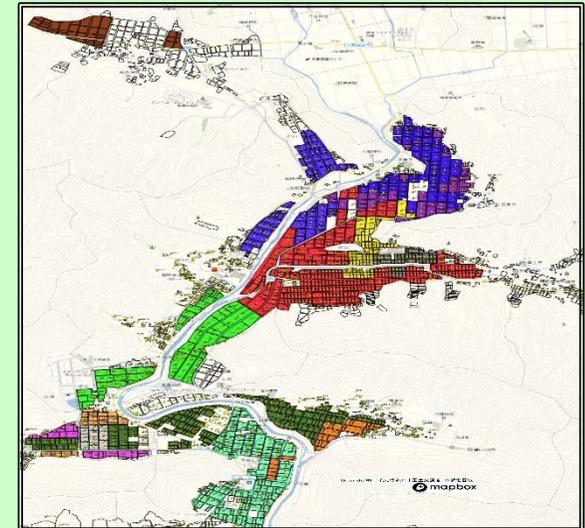
③今後の展開と方向性

農業の大規模化

- 集積を進め、担い手の育成と支援を進める。

目標地図の最適化

- 作成した地図はあくまでも「目標」のため、今後の地域の農地利用の実態に合わせて更新するよう、協議する。



方県地区目標地図（農業委員会サポートシステム利用）

【地域の概要】

- 岐阜市の西部に位置し、200haの水稲耕作地域を擁する。
- 複数の中心的な担い手へ集積が進んでいる。
- 作付け計画によって流動的に耕作者が変わる。
- 地区内にJA全農岐阜いちご新規就農者研修所があり、水稲の担い手以外にもイチゴの新規就農者が大勢活躍中。

①取組開始前の状況や課題

既存の集積地図

- JAぎふ及び担い手自身が、独自に集積地図を持ち、担い手間で交換、集約を行っている。
- 担い手同士で土地の交換を行うため、現在誰がどの農地を耕作しているのか調整者の「JAぎふ」しか把握できない。
- 一団の農地内で、農業経営を廃止した農家が資材置場や駐車場に転用し徐々に農地が減少している。



既存地図を元に話し合い

②取組内容

担い手独自の地図の見える化（令和5年7月）

- 各担い手の地図を共有

担い手間の協議（令和5年12月）

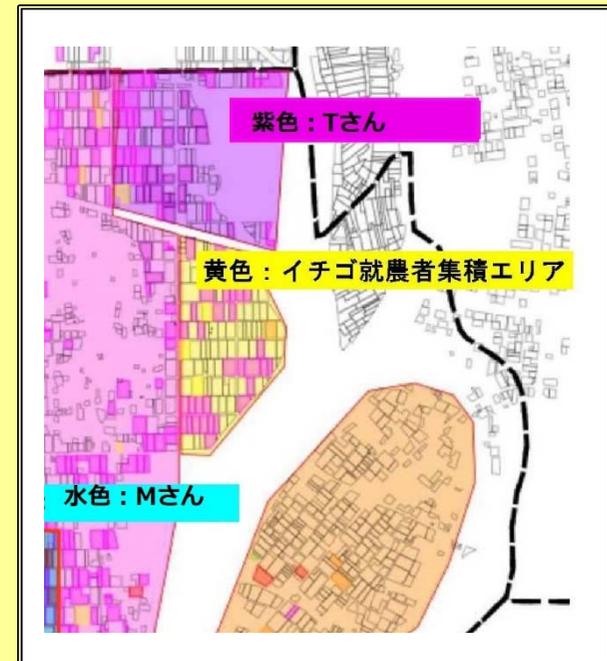
- 耕作地の境界線の話し合い

地域計画で転用地の誘導及び規制

- 既存集落周辺に転用を誘導
- 第1種農地の維持

米農家とイチゴ農家の住み分け

- イチゴの新規就農者が多く集まる農地一帯をイチゴ農家のための区域に指定。
- 共に研修した新規就農者同士が近くにいることで、一体感が生まれ協力しやすい土壌ができる。
- 営農指導員の指導や情報の共有が容易に。



合渡地区目標地図素案

③今後の展開と方向性

- 協議の場はこれから目標地図素案を基に協議の場で話し合い実施。
- 既存地図を目標地図へ落とし込み、情報の一元管理。
- 中心となる営農組織へのさらなる集積。新規就農者の育成の継続。